

## 支部だより

### 中国・四国支部

当支部では毎年講演会、研究会を開催し、支部会員のORに対するレベルの向上につとめているが、このほかに支部地域に対するORの普及活動として、毎年なんらかの行事を催している。

昨年度はこの行事として講習会を開催したが、本年度は新しい試みとして、広島市環境事業局の依頼をうけ、広島市の家庭ごみ収集計画に対し、OR的にみて改善すべき点があるかどうかという問題を支部として協力することをこなっている。

学会支部が地域に協力する場合、企業に対する協力には問題点が生じるが、今回の協力は依頼先が公共事業体であり、問題もちょうど手ごろな問題であり、支部役員の賛意がえられたので協力することになった。実際に協力するメンバーは支部役員の有志が参加することにし、このメンバーのなかには企業の方もいるが、企業においても地域社会の問題ということで、賛意が得られた。

このように企業内のメンバーも加わることで、会合は夜間とし、日常業務に支障のないよう配慮した。

今回の作業は昭和56年度のごみ収集計画の作成ということで、55年6月から約15回の会合を行ない、メンバーと市担当者との間で意見交換を行ない9月末には一応作業を終了した。

結果はごみ量の予測、標準作業の測定、制定、これに

もとづく車両台数の算定を行なったが、これらは従来の計画より合理的な計画を作成することができた。

これらの経過、内容は今後ORサロン、オペレーションズ・リサーチ誌に投稿する予定である。

今回の協力を通じ、支部としては、広島市当局にORの有用性をとおし、大いに普及につとめたこと、また支部有志が、1つの共通の目的のもとで、率直に意見交換を行ない、たんなる文献の勉強会ではなく、実践的にORの問題解決につとめたことに、大いに意義があったと考えている。

ただ短期間であったため、つみ残しの問題も多く、今後さらにこの問題の解決につとめ、またORの問題解決という立場から、今後若いメンバーの参加を積極的に行ないたいと考えている。この問題に対し本部、他支部の協力をお願いしたい。

支部の定例行事としては講演会を3回、研究会を1回行なっている。講演会は、

「わが社におけるOR」 日立製作所 越智利夫氏、  
「電力システムの需給マネジメントとタフネス」  
(東京大学 関根泰次氏)  
「中部電力におけるOR活動について」(中部電力 本告光男氏)である。

第1回、第3回の講演は53、54年度の実施賞の内容であり、第2回の講演は電気事業の経営計画をSDモデルとしてとらえ、これにタフネスという概念で評価を行なおうとするORそのもの問題提起である。

研究会は「企業活動のシミュレーション」東洋工業 岡崎一祐、長瀬徹郎両氏によるもので、東洋工業で開発した自動車の生産、販売に関するビジネスゲームの報告である。(青木兼一)

#### 「オペレーションズ・リサーチ」誌価格改訂のお願い

昭和51年1月、本誌が日本オペレーションズ・リサーチ学会の機関誌として刊行されてからすでに5年が経過致しました。53年に小幅改訂を行なったものの諸物価高騰等の激しい経済的変動の中で、時代に相応した内容の充実をはかり、読者の皆様へ、より新しい知識と、より迅速な情報をお届けすべく努力して参りました。

しかしながら最近の印刷費、用紙代の値上がりに加え、通信費の大幅な上昇のため、読者の皆様のご協力をあおがなくてはならない段階に立ちいたりました。低成長時代と呼ばれている今日、誠に心苦しいお願いではございますが、「オペレーションズ・リサーチ」誌の定価を3月号より、次のとおり改訂させていただきますようお願い

申し上げます。

ただし、すでに契約済みの分につきましては、次回購読更新時まで、現行定価にて取り扱わせていただきます。

なお、本誌の充実につきましては、今後一層の努力をつづける所存でございますので、今後ともご愛読賜わりますよう切にお願い申し上げます。また、あわせて「論文誌」も下記のとおり改訂させていただきます。

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

「オペレーションズ・リサーチ誌」

1部定価 850円

年間予約購読料 9600円

「論文誌」

1部定価 3300円

年間予約購読料 1万1000円

(以上いずれも送料込み)